



平楽の丘だより

横浜市立平楽中学校

【3月号】

学校 HPアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/heiraku/>

想いは、次へ

校長 山崎 悦宏

校庭の木々にも少しずつ春の気配が感じられるようになりました。朝晩はまだ冷たい空気が残っていますが、日差しの中にはやわらかなぬもりがあり、季節が確実に次の歩みへと進んでいることを感じます。3月は、別れと新しい始まりが交差する特別な時期です。

先日、本校では卒業式を行い、3年生が平楽中学校を巣立っていきました。卒業生一人ひとりの表情には、この三年間で積み重ねてきた時間の重みを感じられました。少し緊張した面持ちの中にも、仲間とともに歩んできた日々への誇りや、これからの新しい道へ進もうとする決意がにじんでいました。

式の中で、仲間と過ごした時間を思い返しているような姿や、友達と目を合わせてうなずき合う様子を見ていると、学校生活の中で築かれてきた絆の深さを感じました。楽しいことはばかりではなく、時には悩んだり、うまくいかないことに向き合ったりしたこともあったと思います。しかし、そうした経験の一つひとつが、仲間とともに乗り越えてきた大切な時間だったのではないのでしょうか。

卒業式のあと、静かになった校舎や教室を見ていると、これまで学校を支えてくれていた3年生の存在の大きさを改めて感じます。部活動や学校行事、日々の学校生活の中で、先輩たちは言葉だけでなく、行動や姿勢で多くのことを示してくれました。その背中から学んだことは、きっとみなさんの心の中にも残っていることと思います。

卒業生のみなさんは、それぞれ新しい環境へと進んでいきます。これから先、楽しいこともあれば、壁にぶつかることもあるでしょう。しかし、平楽中学校で過ごした日々、仲間と支え合った経験、努力してきた時間は、きっとこれからの人生の中で大きな支えとなるはずです。卒業生のみなさんが、それぞれの場所で自分らしく歩いていくことを、教職員一同、心から願っています。

さて、1・2年生のみなさんにとっても、この3月は大切な節目の時期です。まもなく新しい学年を迎え、学校の中心となっていく立場になります。これまで先輩たちが築いてきた学校の良さや伝統は、これからみなさんが引き継いでいくものになります。

これまでの一年間を振り返ってみてください。授業や行事、部活動、友達との関わりの中で、それぞれにたくさんの経験を積んできたはずです。うまくいったこともあれば、思うようにいかなかったこともあったでしょう。しかし、そのすべての経験が、みなさんを少しずつ成長させています。できるようになったこと、続けてきたこと、勇気を出して挑戦したこと、その一つひとつが、次の学年へ進むための大切な力になっています。

学校という場所は、一人で作るものではありません。互いを思いやる言葉、相手の気持ちを考えた行動、仲間を支えようとする気持ち。そうした小さな心遣いが重なり合うことで、安心して過ごせる学校が生まれます。これからも、あたたかい言葉遣いと心遣いを大切にしながら、平楽中学校をさらにより良い学校にしていってほしいと思います。

春は、新しいスタートの季節です。卒業生が残してくれた想いを受け取りながら、みなさん一人ひとりが次の一步を前向きに踏み出していくことを願っています。そして、新しい学年の中で、それぞれが自分らしく輝きながら成長していってくれることを期待しています。

「学び・豊かに・健やかに」 & 「平(圃)楽=やるときはやる」

【第79回卒業証書授与式】

3月11日(水)、令和7年度横浜市立平楽中学校第79回卒業証書授与式がしめやかに挙行されました。本年度は緑学年141名が平楽中学校を巣立ち、それぞれの道へと進む節目を迎えました。卒業生合唱の「旅立ちの日に」は3年生の思いが一つとなった歌声が体育館内に響き渡り、「千年樹の夢」では涙ぐむ声が混じりながらの合唱となりました。



多くの保護者やご来賓の皆様にご参列いただき、卒業生の門出を温かく、祝福いただきました。今回の卒業生で卒業生総数は18,415名を数え、伝統ある平楽中学校の歴史にまた新たなページを積み重ねることができました。これからも、卒業生及び平楽中学校の教育活動へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



【1学年 百人一首大会】

3月12日(木)、1年生による百人一首大会が行われました。

本行事は、国語科の学習の一環として、日本の伝統文化である和歌に親しむことを目的に実施されています。

大会当日は、会場に静かな緊張感が漂う中、読み手の声に集中して耳を傾ける生徒たちの姿が印象的でした。札を取る瞬間の素早い動きや、取れたときの喜び、思うようにならなかったときの悔しさなど、一首一首に生徒たちの真剣な表情が見られました。百人一首に初めて本格的に取り組む生徒もいましたが、事前の学習や練習を通して、和歌のリズムや言葉の美しさを少しずつ感じ取れるようになってきた様子がうかがえました。また、対戦相手への礼儀や、仲間を応援する姿からは、競技を通して人との関わり方も学んでいることが感じられました。

勝敗の結果だけでなく、最後まで集中して取り組む姿勢や、日本の文化に触れようとする意欲は、中学生としての大きな成長につながるものです。今回の経験を、今後の学習や学校生活にも生かして行ってほしいと思います。

